

■施工される方へのお願い

- 取付け前に必ず本説明書をお読みください。
- 本説明書で使われているマークには以下のような意味があります。

▲注意 …取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負う危険および物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

- シャッター本体の脱落や変形による作動不良・雨漏りの原因になるおそれがあるため、下記事項をお守りください。
 - ・本製品は木造用です。躯体が木造であることを確認してください。
 - ・シャッター本体は必ず外壁仕上げ前に、直接構造体に取り付けてください。
 - ・本製品は必ず指定のねじで取り付けてください。ねじの固定位置に構造体がない場合、構造体を追加してください。
 - ・ブラケット取付け面が平面であることを確認してください。
 - ・ブラケット取付けの際、ガタがないように確実に固定されていることを確認してください。
 - ・本体が確実にブラケット、及び連窓用ブラケットに掛かっていることを確認してください。
 - ・樹脂カバーが奥まで差し込まれていることを確認してからねじ止めしてください。
 - ・吊り束は最大60kgの荷重がかかりますので、□90mm以上の木材を使用してください。又、吊り束補強板で吊り束の補強をしてください。
 - ・本製品を取り付けた後、シャッター本体と躯体の取り合わせ部に防水テープ(別売り)を張ってください。(右図参照)
- 雨漏りの原因になるおそれがあるため、下記事項をお守りください。
 - ・シャッター本体を取り付ける前に、サッシ枠回りに防水テープが張ってあることを確認してください。
- 組立て・施工時及びスラットの横ズレを直す場合は、手袋をしてください。素手で行うとケガをするおそれがあります。

■構成図

※上図は本体S型です。本体H型も本説明書に従って施工してください。

樹脂

バインドタ

■施工上のお願

- 本説明書は本体S型で説明していますが、H型も同じ手順で取り付けてください。
- シャッターを取り付ける前にサッシ枠の水平・垂直および下枠の上下の反りがない事を確認してください。取付け精度が悪いとシャッターの作動不良の原因になりますので、カイモノ等で調整してください。
- 本体取付けフィンの固定の際、天板のへこみがないように水糸等で確認して行ってください。シャッターの作動不良の原因になります。
- 本製品を軒天内部に納める場合、必ず点検口及びガイドレールが外部から取り外せる構造にしてください。外せない場合、メンテナンスができなくなります。
- 壁仕上げの際、点検口・ガイドレールを塗り込まないでください。メンテナンスができなくなります。
- モルタル施工の際、ガイドレール・下枠にモルタルが付着しないように指導してください。
- モルタル剥離剤はアルミ表面を傷めますので使用しないように指導してください。
- サッシ部分の組立て・取付けについては「サッシ枠」取付け説明書をご覧ください。

■使用部品・ねじ一覧表

皿タッピンねじ Φ4×35	トラスタッピンねじ Φ4×8	ブラケット
	 (D8) (本体S型のみ)	
防水シール (左・右) 	バインドタッピンねじ Φ4×10 (本体S型のみ)	

■連窓用部品セット

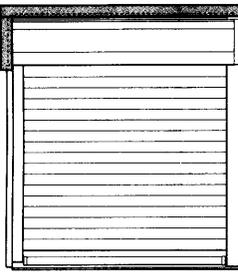
連窓用ブラケット	ナベタッピンねじ Φ4×35	連窓用天板カバー	連窓用点検口カバー
	 トラス小ねじ	 (本体S型のみ)	 (本体S型のみ)
吊り束補強板 	スクリュー釘 Φ3×50 		
		 (本体H型のみ)	 (本体H型のみ)

▲注意

- 漏水・雨漏れ防止のため、同梱されている防水テープを必ず使用してください。

▲注意

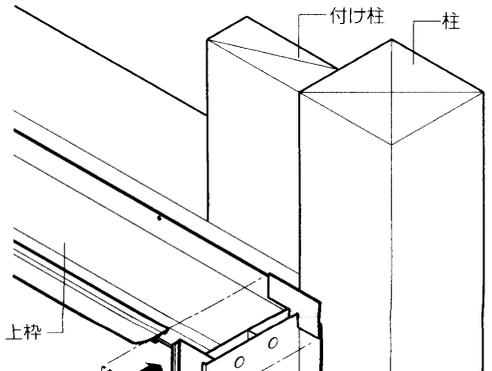
本製品取付け後、シャッターと躯体の取り合わせ部に防水テープ(別売り)を張ってください。
(防水テープ張付け位置参照)



■取付け順序

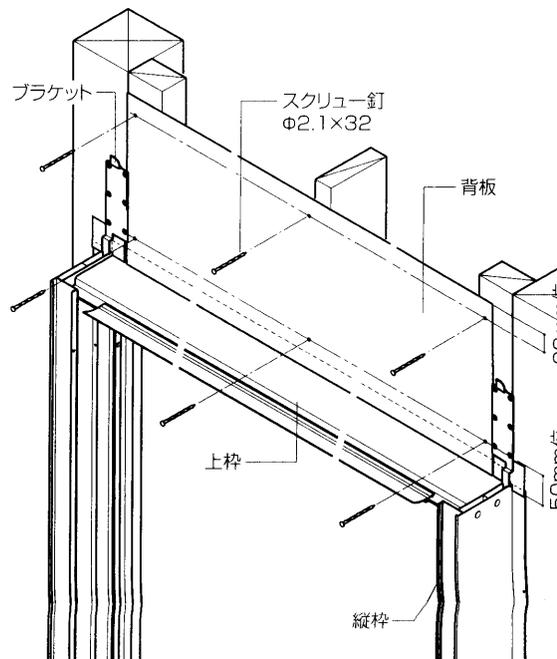
1 ブラケット・連窓用ブラケットの取付け

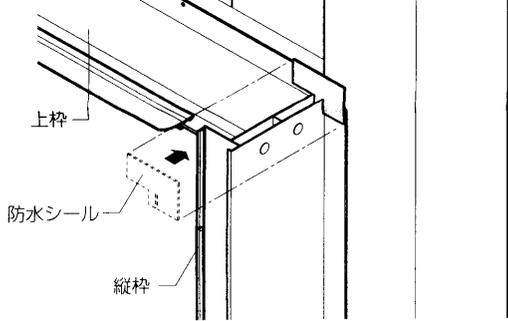
※付け柱が取り付けられているか確認してください。付け柱は必ず取り付けてください。詳細は「サッシ枠」取付け説明書をご覧ください。
※防水シールは、ブラケット取付け前に必ず張り付けてください。正しく張り付けていないと雨漏れの原因になります。



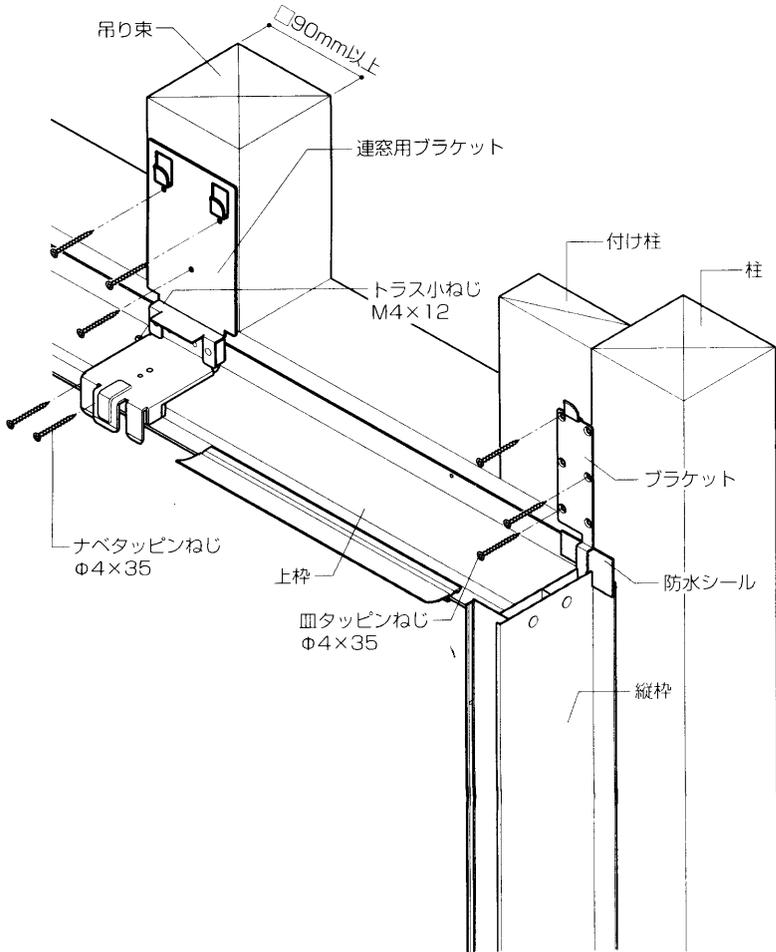
2 本体の取付け

〔本体がUD型の場合、背板の取り付けが必要です〕
●UD型の場合は、同梱の背板を上枠の釘打ちフィンの下に水平面にのせ、左右のブラケットの間に入れ、付け柱、間柱に釘で取り付けます。





- ①連窓用ブラケットを上枠のねじ穴位置にあわせねじ止めし、ブラケットを縦枠にのせます。(ブラケットは右用・左用があります。)
 - ②ブラケットを垂直にし、柱・付け柱にちどりにねじ3本で、固定します。連窓用ブラケットはねじ5本で固定します。
- ※ブラケット・連窓用ブラケットは必ず垂直に取り付けてください。本体が取り付けられなくなったり、作動不良の原因になります。

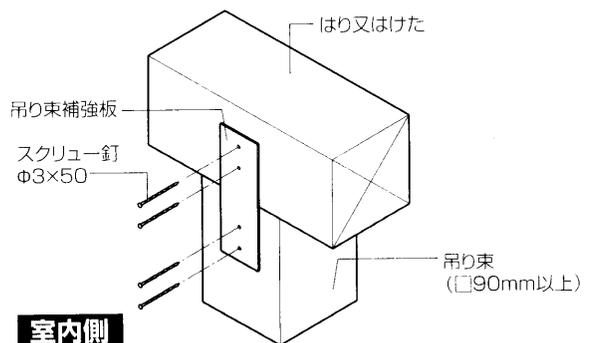


▲注意

- ブラケット・連窓用ブラケット取付けの際、ガタがないように確実に固定されているか、確認してください。本体の脱落・作動不良の原因になります。
- ブラケット取付け面が平面であることを確認してください。平面になっていないところにブラケットを取り付けると、本体が取り付けず雨漏りの原因になります。

▲注意

- 吊り束は最大60kgの荷量がかかりますので、□90mm以上の木材を使用してください。又吊り束補強板で必ず吊り束の補強をしてください。補強が十分でないと本体の脱落や作動不良の原因になります。

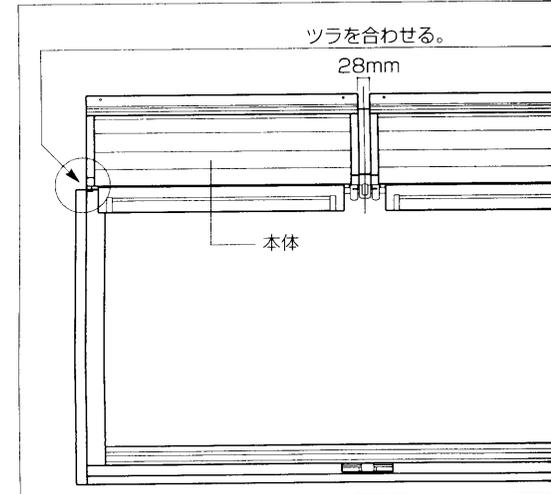
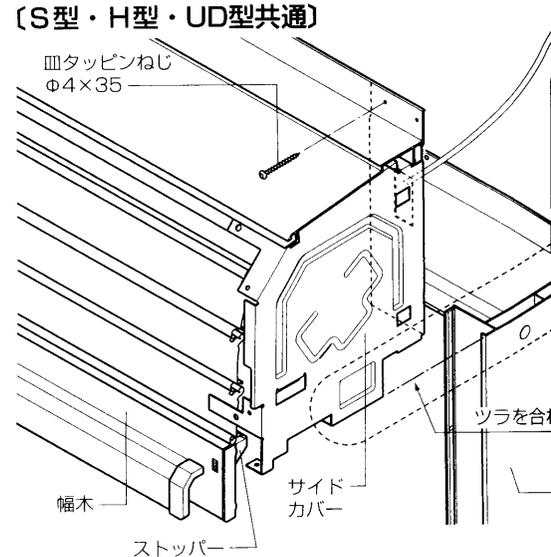


- ※本体を立てたり、斜めにしないでください。スラットが片寄り、作動不良の原因になります。
- ①本体を躯体に固定してあるブラケット・連窓用ブラケットに引っ掛け、同時に縦枠の上ののせます。
- ※本体S型の場合、防水パッキングが張付けてある側を連窓方立側にしてください。
- ※本体を取付ける際、ストッパー（幅木）が上枠の上ののらないように（上枠の下にくるように）注意してください。

▲注意

- 本体取付けの際は手袋をしてください。素手で行くとケガをするおそれがあります。
- 本体が確実にブラケット及び連窓用ブラケットに掛かっているか確認してください。本体の脱落作動不良の原因になります。
- 樹脂カバーが奥まで差し込まれているか確認してください。きちんと差し込まれていないと雨漏りの原因になります。

- ②縦枠と本体の左右のツラを合わせ、中央のサイドカバーの間隔が28mmであることを確認し、仮止めします。



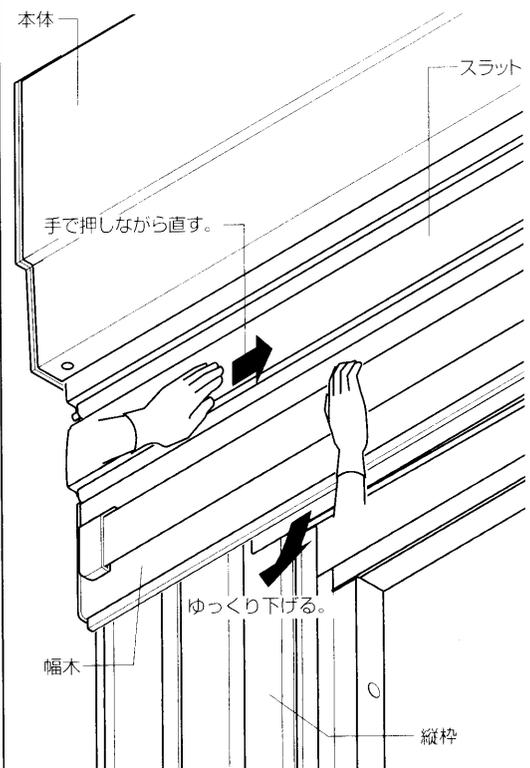
3 スラットの横ズレの確認

- ①幅木の長さの中央を持ち、開口の1/3程度までスラットをゆっくり下げます。横ズレがある場合は、スラットを手で押しながら直してください。

▲注意

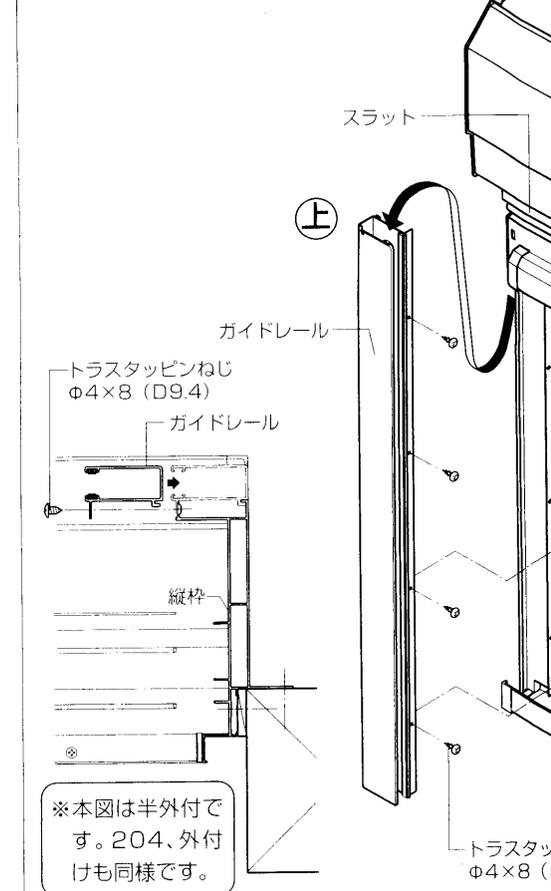
- スラットの横ズレを直す時は、ケガ防止のため、手袋をして行ってください。

- ※縦枠・本体にスラットが引っかからないように注意してください。
- ※幅木が本体の中に巻き込まれないように注意してください。
- ②スラットをゆっくり上げます。

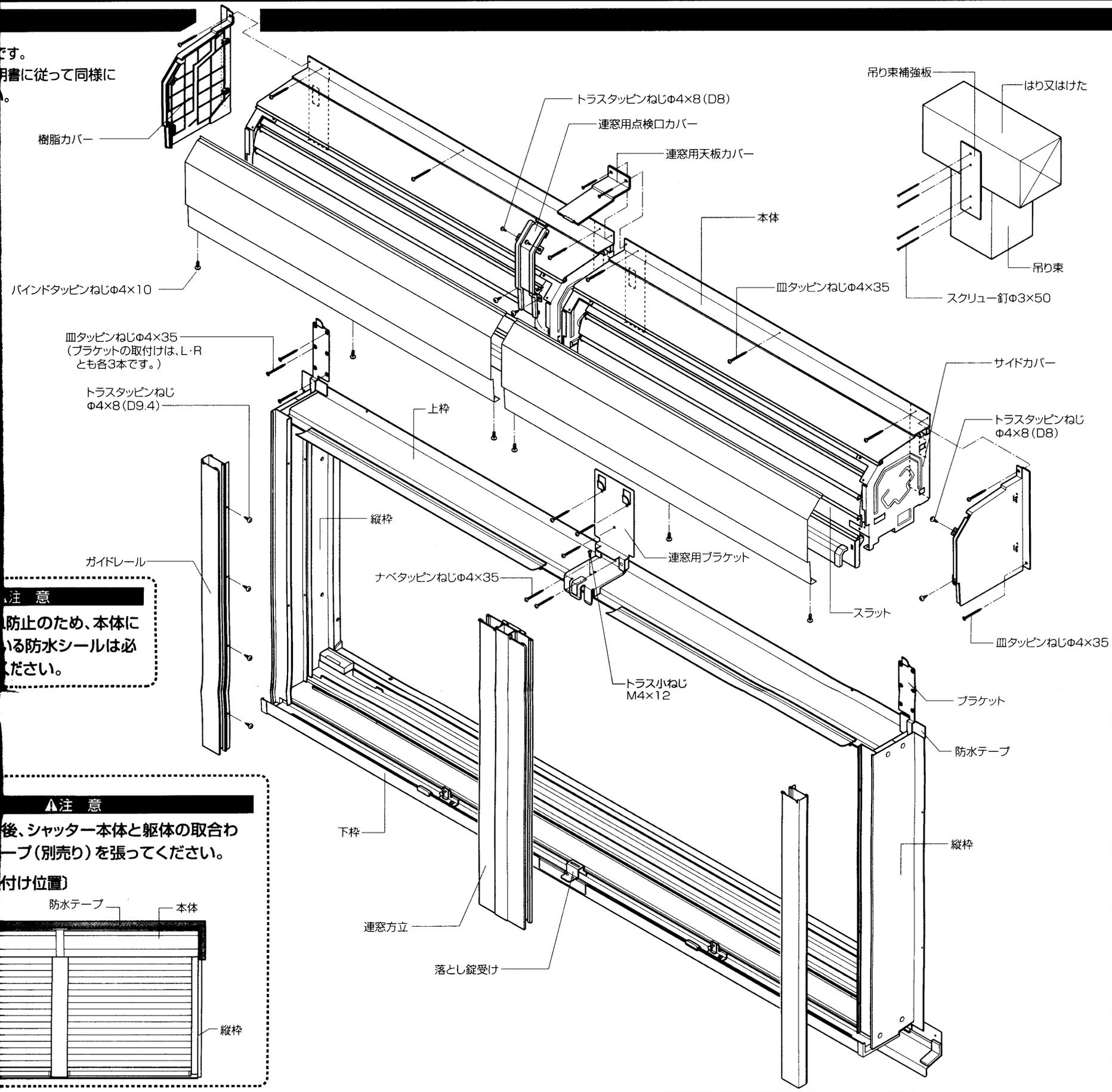


4 ガイドレールの取付け

- ①幅木を引き下げ、ガイドレールの上端（シ）が上側に幅木を引き込み、そのままガイドレールを体内へ挿入し、ガイドレールの下端が下枠こえるように内側へ入れます。
 - ②ガイドレールをスライドさせ、縦枠にはめ込んで固定します。
- ※補強ガイドレールを使用した場合、スラットと本体とガイドレールの注意シールを確認してください。
- ※ストッパー（幅木）が上枠の下にくるようにガイドレールをセットしてください。

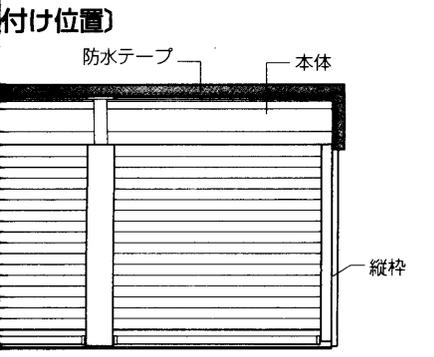


※本図は半外付です。204、外付けも同様です。

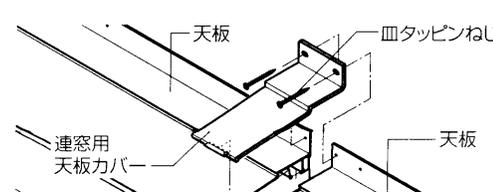
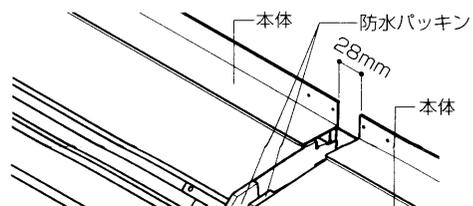
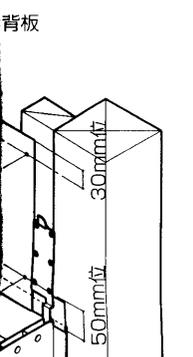
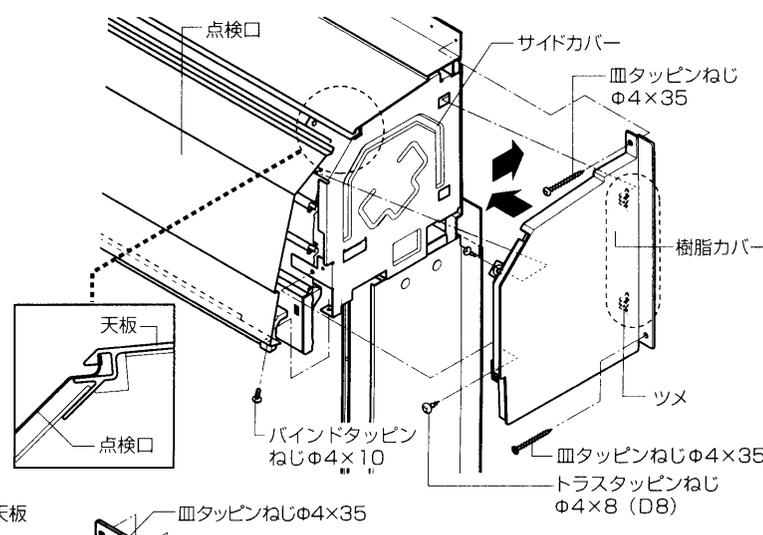


注意
 防止のため、本体に
 いる防水シールは必
 ください。

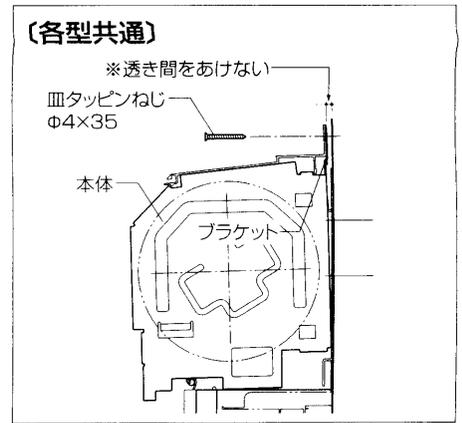
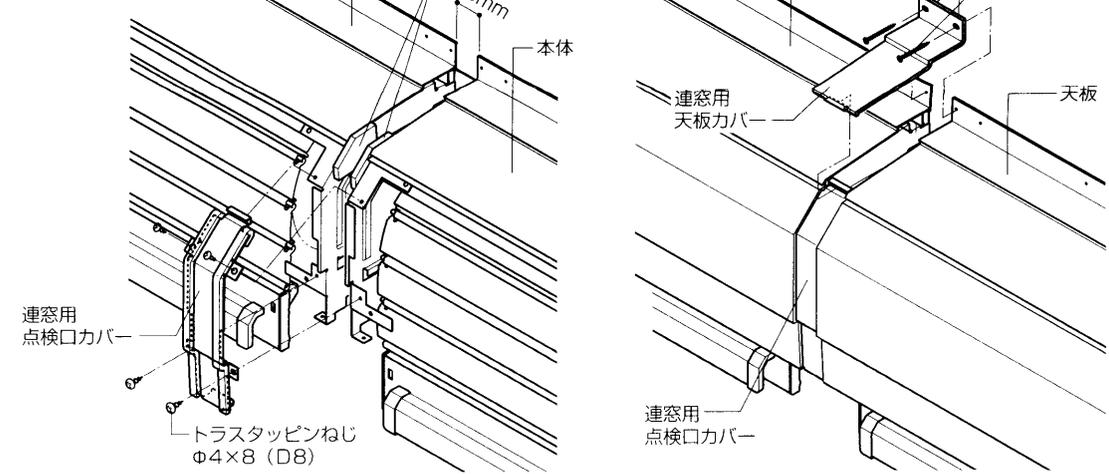
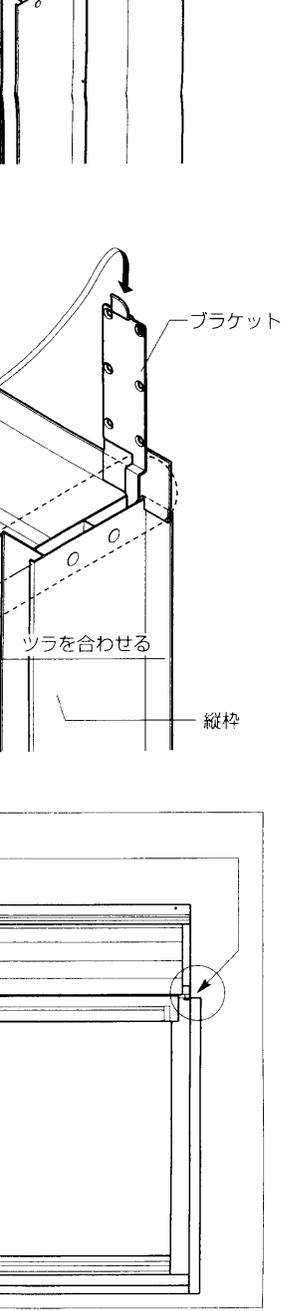
注意
 後、シャッター本体と躯体の取合
 ープ(別売り)を張ってください。



- 【S型】**
- ③ 連窓用点検口カバーで左右本体を連結します。
 - ④ 樹脂カバー裏面の突起をサイドカバーの穴に合わせ、全ての突起が穴に合っていることを確認した後、躯体側へスライドさせ、ねじ止めします。
 - ⑤ 点検口の立上りフィンを天板の溝にもぐり込ませ、回転させるように取付け、ねじ止めします。(樹脂カバーが奥まできちんと差し込まれているか確認後、ねじ止めしてください。)
 - ⑥ 連窓用天板カバーの軒先の折り返し部分を連窓用点検口カバーの上端にひっかけ、天板と共に躯体にねじ止めします。
 - ⑦ 仮止めしてある本体をブラケットとの間に透き間ができないように本止めします。

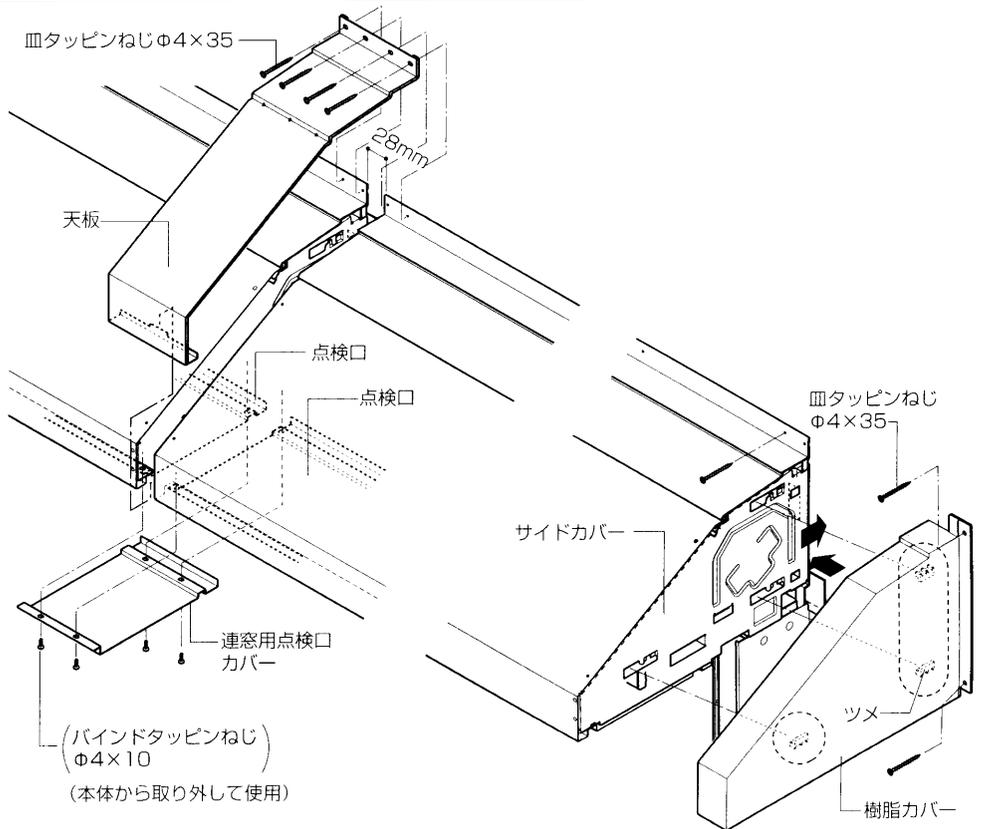


【各型共通】
 ※透き間をあげない
 皿タッピンねじ



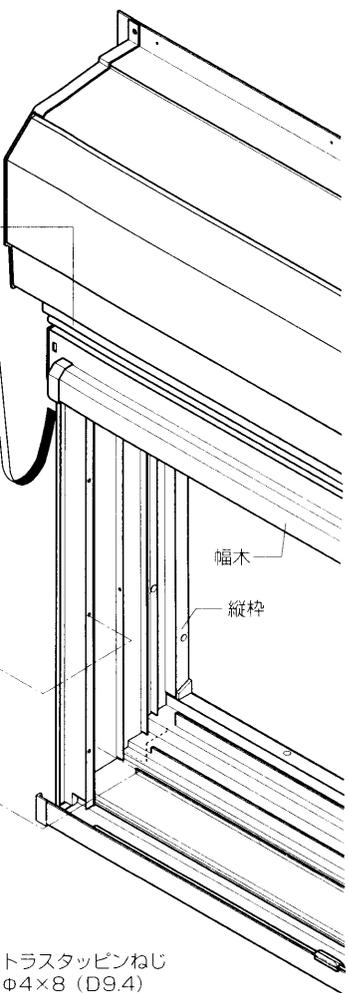
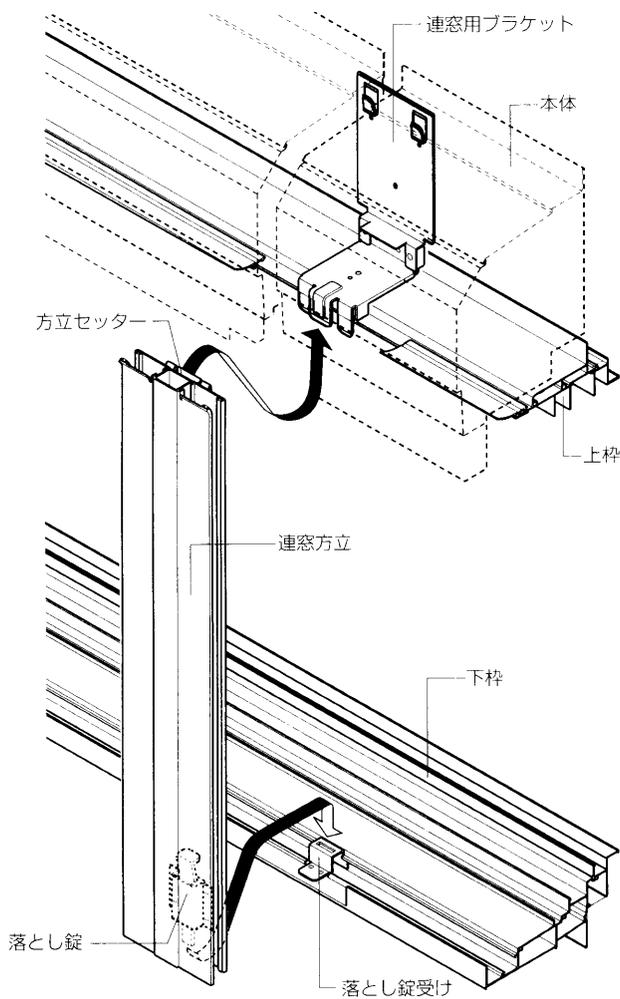
(H型・UD型)

- ③ 本体連窓部分(中央部下部)の点検口をとりつけているねじを外し、連窓用点検口カバーと一緒にとりつけます。
 - ④ 連窓用天板カバーをかぶせ、天板と共に躯体にねじ止めします。
 - ⑤ 仮止めしてある本体をブラケットとの間に透き間ができないように本止めします。
- ※ 本体の取付けフィンの固定の際、天板のへこみがないように水系等で確認してください。
- ⑥ 樹脂カバー裏面の突起をサイドカバーの穴に合わせ、全ての突起が穴に合っていることを確認した後、躯体側へスライドさせ、ねじ止めします。



上端(シールが張ってある方)のままガイドレールの上端を本端が下枠立ち上がりフィンを枠にはめ込み、タッピンねじを締め、ガイドレールをスラットが入りませんので、確認して取り付けてください。

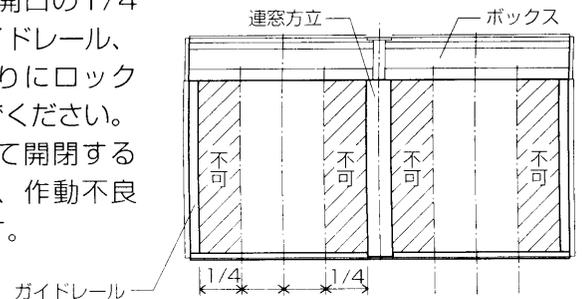
- ③ 幅木を引き下げ連窓方立の上端に左右の幅木を引き込みます。そのまま連窓方立を押し上げ、連窓用ブラケットに差し込みます。次に方立の下部を下枠の落とし錠受けにしっかり押し付け、落とし錠で固定します。
- ※ 取付け完了後、開閉作動チェックをしてください。引っかかり等の支障がある場合は、左記 ⑤ スラットの横ズレの確認を再度行ってください。



5 ロックの確認

使い勝手等のためにロックの位置を変更する場合は、以下の手順で調整してください。

- ※ 左右それぞれの開口の1/4の距離よりもガイドレール、及び連窓方立寄りにロックを移動させないでください。幅木の端をもって開閉することにつながり、作動不良の原因になります。



- ① 下枠についているロック受けのねじを緩め、任意の位置へスライドさせ、位置が決まったら締め直します。
- ② ロック受けのねじのあとが下枠についているので、補修ペイント(別途手配)で補修してください。
- ③ 幅木についているロックのカバーをマイナスドライバー等でつめを取り外します。ロックを固定しているねじを緩め、ロックをスライドさせて動かします。
- ④ 幅木を左右均等の位置にし、ロックを下枠のロック受けの位置へ合わせ、仮止めします。数回ロックの施・解錠をくり返し、作動確認を行います。
- ⑤ 確認がすんだら、ロックのねじを締め付け、カバーを正面から押し込みます。

